



障害のある人のスポーツへの多様な参加を支援するために

障害のある人のスポーツ参加支援推進委員会

第6回 精神障害者スポーツ×楽しさ×つながり

帝京平成大学 健康医療スポーツ学部 作業療学科
勝嶋 雅之

作業療法士になってまだ間もないころ、臨床現場で精神障害のある方のチームで出場するスポーツといえば、ソフトバレーボールであった。2010年に千葉県内で精神障害者のフットサルの大会があると聞いた時は、そんな激しいスポーツが精神障害のある方にできるのだろうか？と感じたことをよく覚えている。

利用者さんとフットサルの大会に見学に行った時はとても驚いた。口数が少なく不安そうな表情をしている方が、ひとたび試合に出場すると、強烈なシュートを放ったり、絶妙なコントロールでパスを出したり。とても滑らかで躍動感のある姿がそこにはあった。走る、蹴るという姿は、なにかとても雄弁に、そしてその方のイキイキとした活力や力強さを眩しく発信しているように感じられた。

それがきっかけとなり、2015「千葉『共に暮らす』

フットボール協会」(以下、トモフト)の設立に合わせて理事として参加するようになり、以来、精神障害者のフットサルを通じた活動を運営している。近年、競技レベルや競技人口がどんどん増している一方で、試合での勝利の追求よりも、フットサルを通して他の人と交流することを希望する方々もおられることがわかってきた。

私たちトモフトでは、2015年よりフットサルとコミュニケーションを融合した「オープンリーグ」を開催している。このイベントでは大会当日に、参加者がくじ引きをして見ず知らずの方たちでチームを作り、「どのように今日一日フットサルを楽しむか」ということや、「どのようなルールであればこのチームみんなが楽しめるか」ということをミーティングで決め、そのルールで他のチームと試合をするという取り組みをしている。



ルールを決めるミーティング



オープンリーグ後の記念撮影

また筆者は、日本ソーシャルバスケットボール協会にも理事として参加している。設立当初（2011年）は全国大会を行っても3チームしか参加しないような規模であったが、現在では全国大会で10チームほどが参加し、今後のさらなる広がりが期待されている。この3年間、当事者や支援者と一緒に全国に出向く「バスケットボールキャラバン」を行い、精神障害者バスケットボールの普及・啓発に努めてきた。「バスケットをしたいけど、今までそういう場がなかった」という個人参加の方も多く、参加後は「久しぶりにバスケットができました」という感想や、「継続して行きたいのでチームを紹介してほしい」という要望が多く聞かれた。全国にはまだまだチームが少ないので、来年度も「バスケットボール

キャラバン」を行って各地方で交流会を開催し、競技人口の増加を図っていく予定である。

これらの精神障害者のスポーツに参加すると、コートの上では障害の有無は関係なく、「どうやってゲームを楽しむか」という共通項でのみつながっていることがわかる。そこは「対等さ」、「協力」、「相手を称え合う」、そして「また会いたいと思う」という気持ちで満ちている。これらのスポーツが、競技という試合結果や成績を超えた、ハートや温かさ・つながりや仲間への思いやりで社会とつながる「ソーシャルインクルーシヴ」なものであるということに改めて感じる。今後の精神障害者スポーツのさらなる発展を会員の皆様や地域の方々と一緒に進めていけたら嬉しく思う。



ゴール下の攻防！



全国大会 2019 後の記念撮影

障害者ダンスバトル 『アートファンク新潟 with OT』のお知らせ

当委員会では、上記のように作業療法士が障害者スポーツに触れる機会の創出のため、今年度イベントを企画する。ダンスイベントである。日常生活に取り入れやすい種目であり、観客として参加しやすく、場を共有しやすいダンスを取り上げることにした。屋内イベントとして、広い競技場を必要としないので企画を立てやすいという背景もある。詳細は今後アナウンスを行っていくが、秋の新潟でお会いするのを楽しみにしている。

日 時：2020年9月26日（土） 18時～21時を予定

会 場：作業療法学会会場とは異なる会場で計画